

連載特集

あの時代の部活動

《強い秋工サッカー部》

大高 芳徳

(昭和48年建築科卒)



父が大工だったことで、小さいころから大工道具を持ち出しては何かを創るのが好きでした。また兄が土木を卒業していたので、高校は迷わず秋田工業(以下:秋工)の建築と決めて、昭和45年4月に入学しました。

中学は、男鹿市の男鹿中(おがなか)中学校で、3年間サッカーをしていました。中学校は市の代表として県大会に出場し1回戦を突破しました。サッカーはここまでで、高校では勉強をと考えていました。自分ではかなり頑張っただけで、1学期の中間試験で46人中16番でした。それもそのはずで、建築科には全県から優秀な生徒が入ってきていたのです。そこでどうするか考えて、サッカー部に少し遅れて入部しました。高校サッカーは中学とは、強さ、スピード、技術が全く違いました。入部して驚いたのは、毎土曜日の練習終了後に2年生からの俗称“ヤキ”があったことでした。理由は・練習中に声が出ていない・ボールの磨き方が悪い・真面目に練習していないなどだったと思います。私は3年間の目標を全県で優勝すること、国体へ行くことと決めていましたので、自分が上級生になったらこのようなことはチームが強くなるには不要なので止めようと思いました。私が1年生の時から、国体は各高校からの選抜制になりました。私も3年になったら、鹿児島国体に行きたいと強く思うようになりました。当時は春のインターハイが終わると、3年生は国体選手を除いて就職活動のため、練習には参加しなくなります。当時サッカー部の監督・コーチは毎日の練習への参加は無く、生徒たちの自主練習でした。私は授業そっこの練習メニューを考えたり、練習試合の計画を組んだりしていました。練習試合は由利工業・秋田大学・男鹿高校や秋田高専などです。中でも由利工業のサッカースタイルは都会的なパスサッカーで、私の考えと同じでした。由利工業の小西先生のサッカーの指導方法に興味があり、先生へ電話で直接指導をお願いし快く受けてくれました。小西先生はその後、癌で若くして他界されたとのことでした。また、秋田大学は先輩の友人で、秋田高校から国体選抜となった鎌田さんが進学されていたので、連絡を取り秋工から全員ジョギングで行きました。なるべく多くの選手に試合経験を考え、また1年生でも将来性のある選手はどんどん出場させました。練習試合はほとんど勝ち、鎌田さんに「1軍を出してください」と言ったところ、「馬鹿野郎、これがうちの1軍だ!」と怒られました。

その年(昭和47年)のインターハイは山形が開催県でした。予選の準決勝は後の全日本のGKを務めた田口がキャプテンの秋田商業でした。伝統校で強豪の秋商と引き分けたのですが、延長PKが無く抽選で秋商が優勝し、全国準優勝として凱旋したのは大変悔しい想いでした。それで8月の夏休み中の県大会の決勝で秋商と当たった時は、試合前のミーティングで皆に

確認したところ、雪辱をとなり大いに燃えて一丸となり3:0で勝利し、秋工サッカー部創部以来の長い歴史で、初めて全県優勝しました。

当時北海道では常勝の室蘭大谷高校が山形インターハイへ向かう途中、由利工業と練習試合をするということで、小西先生から秋工もと呼ばれ喜んで参加しました。室蘭は全国大会の常連でしたので、自分たちの力を試すには最適のチームでした。試合は0:3で負けましたが、内容は点数ほどの差は無く、故高橋先生が、「中央大会へ出場しないチームでこんなに強いチームがあるなんて」とコメントをされたことを聞いて、自分たちは決して弱くないのだと確信を持ちました。室蘭大谷には、日産自動車のサッカー部と一緒にプレーした、松本(秋商の田口と同じ高校日本代表となった)神田、高橋がいた跳びぬけたチームでした。この練習試合の自信が初の県大会優勝に繋がったものと思います。この県大会の優勝があって、我が秋工からは国体の1次選抜30人の内5人選ばれました。私は、2年生の時に和歌山新宮国体の1次選抜に選ばれてはいましたが、2年生であることと右足首を傷めていて、自分でも無理と思ったので、来年は絶対に鹿児島へと思いを強くしていました。

何度かの選抜チームの合宿で明治大学との試合で、右脇腹を蹴られ、数日も痛みが取れず、医者へ行ったら虫垂胃炎とのことでした。国体の監督へ相談し、薬で散らすことにしましたが、その後の合宿で監督から直ぐに手術するようと言われました。1年の時からの夢であった国体出場はだめかと思いましたが、何とか間に合って本番へ行くことができました。鹿児島では準決勝で優勝した埼玉に0:1で負け、3位決定戦では、地元鹿児島に0:1で負けてしまいました。鹿児島は数日前の練習試合で、3:0で勝った相手でした。3位に入れば翌年は無条件で本大会出場権があるのに、後輩たちには申し訳ないことをしたと思います。

また、正月の高校選手権の予選では、一番当たりたくなかった由利工業と準決勝で当たりました。なぜなら相手に手の内を知られていたからです。どこへ行っても佐々木が付いてくるので「孝、なんで俺についてくるのか?」と聞いたら、「小西先生から、どこまでも付け!」と言われたとのことでした。結果、残念ながら、0:1で秋工の選手権出場は夢に終わりました。

県大会で優勝してから、もっと広いところで練習したくて、当時ラグビー部監督の佐藤(忠)先生へお願いしたところ、ラグビーとサッカーと揃って大阪へ行こうと先生は、ラグビー場の半分をサッカー部に貸してくれました。このような周囲の応援もありながら期待に応えられなかったのは、自分の力のなさと思いました。それでも本当に充実した3年間でした。おかげさまで、日産自動車の公式サッカー部(現:横浜Fマリノス)から誘われ、GKの鈴木と入部して、今もまだ、神奈川シニアでサッカーをつづけられるのは、周囲の皆さんのおかげと感謝しています。

ところで、最近の秋工は春の神奈川遠征があり、中央の高校との力を直接知り、監督・コーチ・父兄育成会やOB会も充実し、今年は秋田の中央地区サッカー大会で優勝したこと。また、インターハイは県大会準決勝進出で、3大会連続準決勝負けとのことですが、全国大会出場も近いものと大いに期待しています。是非、あの強い秋工サッカー部が復活することを祈念します。



給排水.衛生.空調.設備 設計.施工.設備


株式会社 北勢工業

質実剛健

代表取締役 太田 博之 (昭和56年 工業化学科卒)

専務取締役 仙北谷 聡 (平成4年 機械科卒)

秋田市仁井田本町5-1-62

TEL: 018(839)6516

FAX: 018(839)6513

<http://www.hokusei-kogyo.com>Cofty <http://www.cofty.net/>

映像制作・広告サービスのコフティ

■ サイト運営「ご家族安心サポート」
<http://www.sousai-support.com>
 葬儀・ギフト(フラワー・贈答品)割引販売
 ホームセキュリティ等

■ HP制作
 ■ 映像制作【撮影～編集まで】
 ウェディング映像
 保育園・幼稚園映像
 スポーツ・イベント映像
 企業・学校映像
 メモリアル映像
 映像配信サービス

コフティ株式会社

〒259-1302
神奈川県秦野市菩提1373-6

TEL 090-7841-0533

FAX 0463-67-7266

e-mail info@cofty.net代表取締役
菅原 秀樹 昭和54年機械科卒